

あとがき

東日本大震災・福島第一原子力発電所事故から10年の節目を迎えるにあたり、福島の“今”を伝えたいと考え、本書を刊行することといたしました。

この10年間、様々な立場で環境再生に関わった方や地域の復興に取り組まれてきた方など、計100人(組)のお話を収録しています。福島に対して、事故直後の印象を有している方には復興に向けた様々な取組を知って“風評”の解消に役立て、事故の記憶が薄れてきている方には困難に直面された方々の記憶を共有することで“風化”の防止に役立てていただきたいと考えました。

巻末には、環境省で取り組んできた環境再生事業に関する資料編を、当時の担当職員らのコラムを添えて収録しています。

福島の復興は、まだ道半ばです。

引き続き、環境再生事業を安全かつ着実に進めていくとともに、中間貯蔵施設に保管する除去土壌等を搬入開始から30年後となる2045年までに福島県外で最終処分するという約束の達成に向けて取り組まなければなりません。環境再生事業のため苦渋の決断でご協力をいただいた住民の方々の思い、まだ避難指示が解除されずご自宅に戻れない方々の思い、そして、本書で取り上げきれなかった多くの方々の思いにも心を寄せて、今後も誠心誠意取り組んでいく。

100人(組)の方々のお話を収録した本書は、この決意を新たにするものともなりました。

本誌の企画には、(株)福島民報社に多大なるご協力をいただきました。着手が昨秋からとなり、多くの関係者の方々にご無理をお願いしました。本書の発刊に関わっていただいた全ての皆様にご場をお借りして御礼申し上げます。

2021年1月